

文庫本『梅田地下オデッセイ』の制作経過

昭和58年4月9日 早川書房・営業部係長 伊勢本 発行

制作年月日と経過	内 容
<p><昭和55年> 6月20日 金 著者より入稿完了</p>	<p>早川書房編集2課は著者(堀晃氏)より郵送されてきた原稿『梅田地下オデッセイ』(ハヤカワ文庫JA〔JAとはJapanese Author<日本人作家>の略称)の9篇(本文分)を受取り入稿完了となる。</p>
<p>6月26日 木 本文割付の後 印刷所に入稿</p>	<p>編集2課は同書を編集の後、制作課に本文原稿をまわす。制作課は本文割付を次の通り行なう。8ポイントで1段組、43字詰の18行、行間は5号2分。組上げ予定ページは約216ページ、組上げ予定日7月11日(金)の指定。以上の点を台割表に記入する。本文割付の完了した原稿を同日印刷業者(三松堂印刷株式会社)の営業部員に説明したのち、依頼、発注する。</p>
<p>7月14日 月 本文組上り</p>	<p>本文が組上がり、三松堂印刷株式会社の営業部員が本文割付原稿と校正用のゲラ刷3通を早川書房に持参する。組上がりは308ページ、制作課は割付通りに本文組が行なわれているか否かを確認し、進行表に鉛筆で308ページまで直線をひき、校正ゲラの出た日を台割表に記入する。本文割付原稿と校正ゲラの1通を校閲課にまわす。制作課では残りの2通のゲラを保管する。</p>
<p>7月15日 火頃 解説依頼</p>	<p>石原藤夫氏に電話にて解説の依頼をする。解説の参考資料として本文ゲラを1通郵送する。</p>
<p>7月17日 木頃 原画依頼</p>	<p>ブック・カバーの原画を加藤直之氏に依頼する。この際、同氏が所属する“スタジオぬえ”に編集2課の社員が参考資料として本文ゲラ1通を特参する。</p>
<p>7月29日 火 本文初校終了</p>	<p>校閲課は初校を終了し、編集2課にまわす。</p>
<p>8月下旬</p>	<p>編集2課は初校終了のゲラを著者校正の為郵送する。</p>

<p>本文著者校正</p>	
<p>8月下旬頃 原画受取り</p>	<p>編集2課の社員は“スタジオぬえ”に出向き、加藤直之氏よりブック・カバーの原画を受取る。</p>
<p>8月22日 金 発行部数と 定価の決定</p>	<p>9月の文庫全出版点数は14点。9月の新刊案内・広告などの為、同書も原価計算を行ない、発行部数と定価の検討、決定に入る。JA文庫の新人平均発行部数は20,000部位としているが、堀晃氏には大いに期待をよせ、討議の結果30,000部と決定する(製作部数は30,100部、内100部は献本用)。定価380円となる。</p>
<p>8月26日 火 表紙・売上カード 写植原稿発注</p>	<p>表紙、売上カード用写植原稿を有限会社伸光写植に発注。</p>
<p>8月27日 水 表紙・売上カード</p>	<p>表紙、売上カードの版下を作成。</p>
<p>版下作成</p>	
<p>売上カード用紙 発注</p>	<p>売上カード印刷用紙を大永紙通商株式会社に発注。 納入先 有限会社幸和堂酒井印刷所</p>
<p>9月2日 火 売上カード刷了</p>	<p>売上カードが有限会社幸和堂酒井印刷所にて刷了となる。</p>
<p>9月4日 木 表紙印刷用紙発注</p>	<p>表紙の印刷用紙を二葉紙業株式会社に発注。 納入先 有限会社幸和堂酒井印刷所</p>
<p>9月5日 金 表紙刷了</p>	<p>表紙が有限会社幸和堂酒井印刷所にて刷了となる。</p>
<p>9月5日 金頃 本文著者校正終了</p>	<p>編集2課から著者に依頼していた本文校正が終了し、校正ゲラが早川書房宛に郵送で届く。</p>

9月9日 火 本文要再校	編集2課は著者校正終了の本文ゲラを整理し、制作課の担当者にまわす。制作課は校正された赤字の入り具合、本文の組版が割付の通りか否かをチェックし、進行表に赤鉛筆で308ページまで直線をひき、初校が終了した日付を記入する。要再校として三松堂印刷株式会社の営業部員に手渡す。
9月10日 水頃 解説原稿出来	石原藤夫氏の解説原稿が書上がり、編集2課の社員が玉川大学まで出向き、同氏より受取る。〔同氏との約束では原稿枚数400字詰で10枚(約5~6ページ分)のところを10倍にあたる枚数(56ページ分)を書上げ、しかも本文中1枚、解説中17枚の図版、地図等の挿入の依頼があった。つまり総ページ320のところは376ページの本となり、超大作の解説が書上がってきた〕
9月16日 火 本文再校出	三松堂印刷株式会社の営業部員が本文再校ゲラを早川書房に持参する。制作課はノンブル等のチェックをし、進行表に再校が出た日付を記入する。校閲課に要再校と記された初校ゲラと再校ゲラとをまわす。
9月下旬頃 付物作成	編集2課は解説原稿の編集業務を終了させ、制作課にまわす。制作課は解説を含む付物を作成し、三松堂印刷株式会社の営業部員に手渡す。
10月1日 水 ブック・カバー用 写植原稿発注 本文再校終了	ブック・カバー用写植原稿をシンエイ企画に発注。 校閲課で本文の再校が終了する。
10月中旬頃 付物組上り	付物が組上がり、三松堂印刷株式会社の営業部員が早川書房に持参。制作課は校閲課に割付原稿と校正ゲラをまわす。
10月下旬頃 付物初校終了	校閲課、編集2課は付物の初校を終了させる。編集2課は解説者(石原藤夫氏)に解説原稿と校正ゲラを持参する。
11月中旬頃	解説者の著者校正が終了し、編集2課の社員が受取りに出向く。

<p>解説者校正終了 付物要再校</p>	<p>編集2課、校閲課、制作課でチェックしたのち、要再校として、三松堂印刷株式会社の営業部員に手渡す。</p>
<p>1 1月下旬 付物再校出</p>	<p>付物の再校ゲラが出るが赤字が多くて解説は組替となる。校閲課は校正を終了させ編集2課にまわす。編集2課は再校解説者校正の為、石原藤夫氏の所に出向く。</p>
<p>1 2月上旬頃 解説者再校正終了 付物要念校</p>	<p>解説者校正が終了後受取り、編集2課、校閲課、制作課でチェックしたのち付物を要念校として三松堂印刷株式会社の営業部員に手渡す。</p>
<p>1 2月中旬頃 付物念校出</p>	<p>付物の念校ゲラを三松堂印刷株式会社の営業部員が持参する。制作課は校閲課、編集2課にまわす。</p>
<p>1 2月17日水頃 凸版割付と トレースの発注</p>	<p>本文、解説中に入る地図、図版等凸版の割付、整理が一部をのぞいて終了し、シンエイ企画にトレース（粗筆に描かれた図面などを新たに描き直すこと）の発注をする。</p>
<p>1 2月23日 火 発行部数と 定価の再決定</p>	<p>昭和55年8月25日（金）の時点で発行部数と定価が決定したが、解説が増した為、ページが変更となり原価計算のやり直しをする。その結果発行部数は30,000部で変わらず、定価は380円から460円となる。</p>
<p>1 2月24日 水 ブック・カバー用 写植原稿発注</p>	<p>ブック・カバー用写植原稿をシンエイ企画に発注。</p>
<p>原画写真撮影</p>	<p>ブック・カバーの材料として有限会社イシイ美術製版所に原画の写真撮影を発注。</p>
<p>ブック・カバー 版下作成、発注</p>	<p>ブック・カバーの版下を作成し、有限会社ミツミ製版所に発注。</p>

<p>〈昭和56年〉</p>	
<p>1月7日 水 ブック・カバー 印刷用紙発注</p>	<p>ブック・カバー用の印刷用紙を大永紙通商株式会社に発注。 納入先 有限会社アジア印刷</p>
<p>1月10日 土 ブック・カバー 刷了</p>	<p>ブック・カバーが有限会社アジア印刷にて刷了。</p>
<p>1月12日 月 ブック・カバー ビニール加工</p>	<p>ブック・カバーのビニール加工を有限会社長谷川光和堂に発注。</p>
<p>1月19日 月 売上カード用紙 再発注</p>	<p>売上カード刷直しの為、大永紙通商株式会社に再発注。（解説が増ページになり定価変更の為）</p>
<p>1月20日 火 売上カード再印刷</p>	<p>売上カードの印刷を有限会社幸和堂酒井印刷所に再発注。</p>
<p>1月21日 水 本文責任校了</p>	<p>制作課は念校が終了した本文ゲラの赤字の整理を行ない、責任校了として校正刷に「貴了」の印を押し、三松堂印刷株式会社の営業部員に手渡す。</p>
<p>1月23日 金 トレース出来</p>	<p>昭和55年12月下旬に発注済みの本文、解説中の凸版用トレースが出来上る。</p>
<p>印刷指示書作成</p>	<p>本文印刷に入る為、台割表と印刷指示書を三松堂印刷株式会社の営業部員に手渡す。</p>
<p>1月27日 火 付物責任校了</p>	<p>校閲課、編集2課は付物の念校を終了させ、制作課にまわす。制作課は題名、文面などの印刷位置を指定して「貴了」とする。</p>
<p>1月28日 火</p>	<p>腰帯用写植原稿をシンエイ企画に発注。</p>

腰帯写植原稿発注

1月30日 金
腰帯作成、発注

腰帯の版下作成、有限会社ミツミ製版所に発注。

腰帯用紙の発注

腰帯印刷用紙を大永紙通商株式会社に発注。

納入先 有限会社幸和堂酒井印刷所

2月2日 月
腰帯刷了

腰帯の印刷が終了する。

2月3日 火
本文刷了

本文（付物も含む）が三松堂印刷株式会社にて刷了となる。

2月4日 水
一部抜き点検

一部抜きを三松堂印刷株式会社の営業部員が早川書房に持参する。
制作課は落丁、乱丁などをチェックして編集2課にまわす。

2月5日 木
製本（見本用）

刷了となった刷本は製本所（株式会社川島製本所）に納入される。
製本所は見本用製本に入る。

配本部数の検討

営業部第1課（外商）は配本部数の検討を行なう。

2月6日 金
見本
配本部数の決定

見本用の製本が完成し、株式会社川島製本所の営業部員が同日午
前早川書房に120冊を持参する。早川書房では配本部数の決定を
し、第1課（外商）は各取次店に見本を持って行き、配本部数を申
し入れ、決定する。

2月10日 火
配本

『梅田地下オデッセイ』の作品が各取次店を通じて全国発送とな
る。